2018年10月25日

米国株大幅下落について

ポイント① 米国株式市場が大幅下落

10月24日の米国株式市場は大幅下落しました。主要株価指数で見ると、NYダウが▲2.4％、S&P500が▲3.1％下落し、昨年末比でマイナス圏に沈みました。ナスダック総合指数は▲4.4％下落し、今年8月29日の高値から▲12.3％下落し、調整局面入りしました。また、この日の大幅下落の主要因となった半導体指数は▲6.6％下落し、約1年前と比較してもマイナスとなりました。

ポイント② きっかけは業績見通しへの警戒

米国時間の火曜日夕刻から水曜日にかけて、テキサス・インスツルメンツやSTマイクロニクス（共に半導体メーカー）が決算発表を行ない、今後の事業環境について「需要が減速する」との見通しを示したことが大幅下落のきっかけとなりました。減速の原因は仮想通貨関連や中国での需要減とのことです。

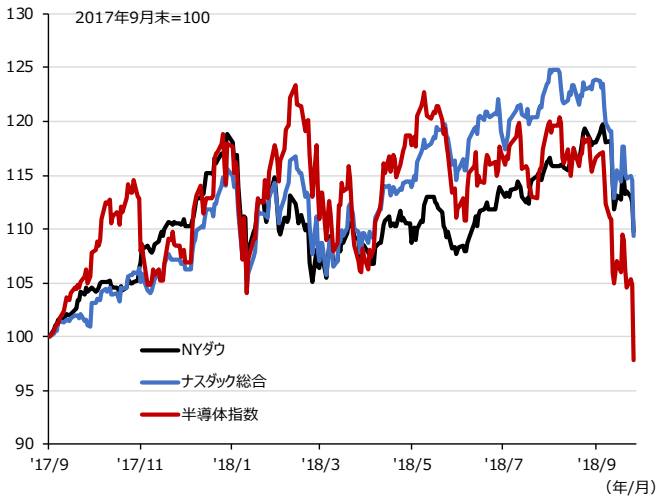
今週に入り、キャタピラーや３Ｍが決算発表で市場の期待に届かない内容を示していたことから、企業決算に関する警戒感が一気に広がり、半導体に限らず幅広い銘柄が連想安しました。

ポイント③ 株価に割高感はない

中国景気の減速は以前から警戒されていましたが、いざ、その影響が今後の企業業績に出てくることが決算で明らかになったことで、投資家は警戒モードを一段高めたようです。おそらく、足元の決算発表を一通り確認するまでは積極的な行動には出にくいと思われます。しかし、昨今の株価下落によって、S&P500株価指数の2019年予想ベースのPER（株価収益率）は15倍程度と、過去平均に比べて割高感はなくなりました。更なる大幅下落のリスクは低下し、今後は、決算発表が一巡し、日柄調整が進めば、見直し買いも入ってくると考えています。

図1：米国株価指数の推移

期間：2017年9月29日～2018年10月24日、日次

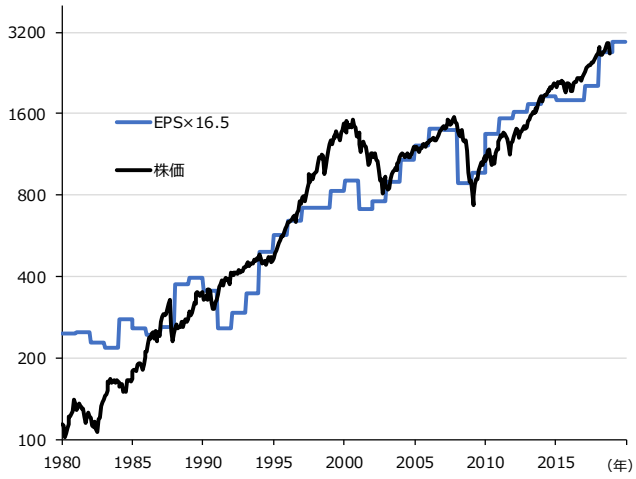


（注）半導体指数はフィラデルフィア半導体株指数

（出所）Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

図2：S&P500株価指数とEPSの推移

期間：1980年1月～2018年10月(24日)、月次



（注）EPSは一株当たり利益

（出所）Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

NOMURA
野村アセットマネジメント

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。